

岩盤ボーリング柱状図

調査名 他河川 赤石川 砂防激甚災害対策特別緊急事業に伴う業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象 砂防 構造物基礎

ボーリング名	No.15	調査位置	広島県三原市木原町地内	北緯	34° 23' 19.0929"
発注機関	広島県東部建設事務所 三原支所		調査期間	令和4年11月14日～ 令和4年11月24日	
調査業者名	主任技師		現場代理人	コアア	ボーリング
孔口標高	114.42m	角	180° 上 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	25.00m	度	0°	向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
		地盤勾配	42° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	東邦地下工機D-1型
		エンジン	ヤンマーディーゼルNFD-12F	ポンプ	東邦地下工機DG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名 (模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬質の軟化	コアの形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 [cm]	R Q D [%]	記事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					室内試験	削孔状況								
																	N	深	50	打	自										
1	112.92	1.50	砂質礫	砂質礫								0 [0] (100)			崖壁堆積物。礫径はφ10~50mmの角礫主体。植物根が通じる。マトリックスの砂はやや粘性あり。		15	1.15	15	300			240	101	S/MC	1	60	0	W3		
2				褐								0 [0] (100)			GL-1.50m~4.50m付近、鉛直と水平方向の亀裂が多く発達する。全体的に軟質で、ハンマー打撃にて濁音、原岩組織はやや不明瞭。		33	2.15	33	300			120								
3					w4	h3					VI	0 [0] (100)						50	3.15	50	300			120							
4	109.92	4.50										0 [0] (100)			GL-4.50m~7.15m付近、所々未風化部が点在するものの、全体的には軟質。鉛直と水平方向の亀裂が多い。		45	4.15	45	300			120		H/W/D/B	0	60	0	W3		
5	109.22	5.20									V	0 [0] (100)						50	5.15	50	200			120							
6				褐灰	w3	h2					IV	0 [0] (100)			GL-7.15m~11.10m付近、硬質となる。ハンマー打撃にて鈍い金属音を発する。		50	6.10	50	210			120								
7	107.27	7.15										0 [0] (100)						50	6.31	50	210			240							
8												17 [32] (100)			GL-10.70m~10.80m付近、厚さ3cm位の軟質下部が挟まる。			50	7.10	50	50			11	115						
9					明灰	w2	h1				II	23 [49] (100)			GL-11.10m~12.45m付近、鉛直と水平方向の亀裂多くなり、やや軟質となる。									180							
10												20 [20] (100)																			
11	103.32	11.10										0 [0] (100)			GL-12.45m~12.90m付近、硬質でハンマー打撃にて金属音。									11	116						
12	102.42	12.00		褐	w3	h2					V	0 [0] (100)			GL-12.90m~13.20m付近、45°位の亀裂多く軟質化する。									180							
13	101.97	12.45			明灰	w2	h1				III	16 [28] (100)			GL-13.20m~14.00m付近、やや硬質となり、棒状コア主体。									180							
14	101.47	12.95		褐	w4	h3					VI	29 [45] (100)			GL-14.00m~15.20m付近、変質がやや強くなり、やや軟質となる。									180							
15	100.92	13.50			明灰	w3	h1				III	13 [13] (100)			GL-15.20m~16.60m付近、硬質となる。ハンマー打撃にて金属音。									180							
16	100.42	14.00		褐灰	w3	h2					III	10 [20] (100)			GL-16.60m~18.70m、やや軟質となる。鉛直と45°位の亀裂が多い。(GL-18.00mまで)									11	118						
17	99.22	15.20										34 [34] (100)			GL-18.00m~18.40mはやや硬質。									180							
18	97.82	16.60			明灰	w2	h1				III	12 [12] (100)			GL-18.40m~18.70m付近、45°位の亀裂多く、やや軟質となる。									180							
19	95.72	18.70										10 [10] (100)												180							
20	94.92	19.50		褐灰	w3	h3					V	13 [13] (100)			GL-18.70m~19.50m付近、軟質となる。所々、原岩組織が不明瞭となる。									180							
21	93.82	20.60										7 [0] (100)			GL-19.50m~20.60m付近、やや硬質となるが、所々、原岩組織が不明瞭となる。									11	121						
22	93.12	21.30		褐灰	w2	h2					IV	26 [47] (100)			GL-20.60m~21.30m全体的にやや変質している。高角な亀裂多く、棒目状に変質している。									180							
23	92.17	22.30			明灰	w2	h1				III	15 [25] (100)			GL-21.30m~22.30m付近、やや硬質となる。水平方向と鉛直方向の亀裂主体。									180							
24	91.52	22.90										6 [0] (100)			GL-22.30m~22.90m付近、変質が著しく軟質化している。原岩組織は不明瞭。									240							
25	91.02	23.40		褐	w4	h3					V	22.65 [36] (100)			GL-22.90m~23.40m付近、変質はしているが、原岩組織はやや不明瞭。									11	122						
25	89.42	25.00			明灰	w2	h1				III	14 [24] (100)			GL-23.40m~25.0m付近、やや硬質となるが、45°位の亀裂多い。									11	123						

